



米子市指定史跡

せき しゅう ふ 石州府1号墳



▲上空から見た石州府古墳群

【米子市福市考古資料館】

石州府古墳群から出土した遺物も展示しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:30~17:00
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合 翌日)
年末年始(12/29~1/3)

〒683-0011 米子市福市461-20
TEL・FAX 0859-26-3784

【米子市埋蔵文化財センター】

展示室にて市内出土の考古遺物を展示しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:00~17:00
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 土日・祝日、12/29~1/3

〒683-0011 米子市福市281
TEL・FAX 0859-26-0455



アクセス

【JR・バス】

JR米子駅から路線バス58番・福万線に乗り、「石州府別れ」下車、西へ徒歩13分(約1km)。

【車】

山陰自動車道米子東ICから県道53号線を南へ、「新日下橋南詰」交差点を東へ(約9分)。

現地には、トイレはありません。石室内の見学には懐中電灯が必要です。

問い合わせ 米子市文化振興課

〒683-8686 鳥取県米子市東町161番地2
TEL 0859-23-5438 FAX 0859-23-5414
E-mail: bunka@city.yonago.lg.jp



このリーフレットは令和2年度に「市内埋蔵文化財 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を活用して作成しました。

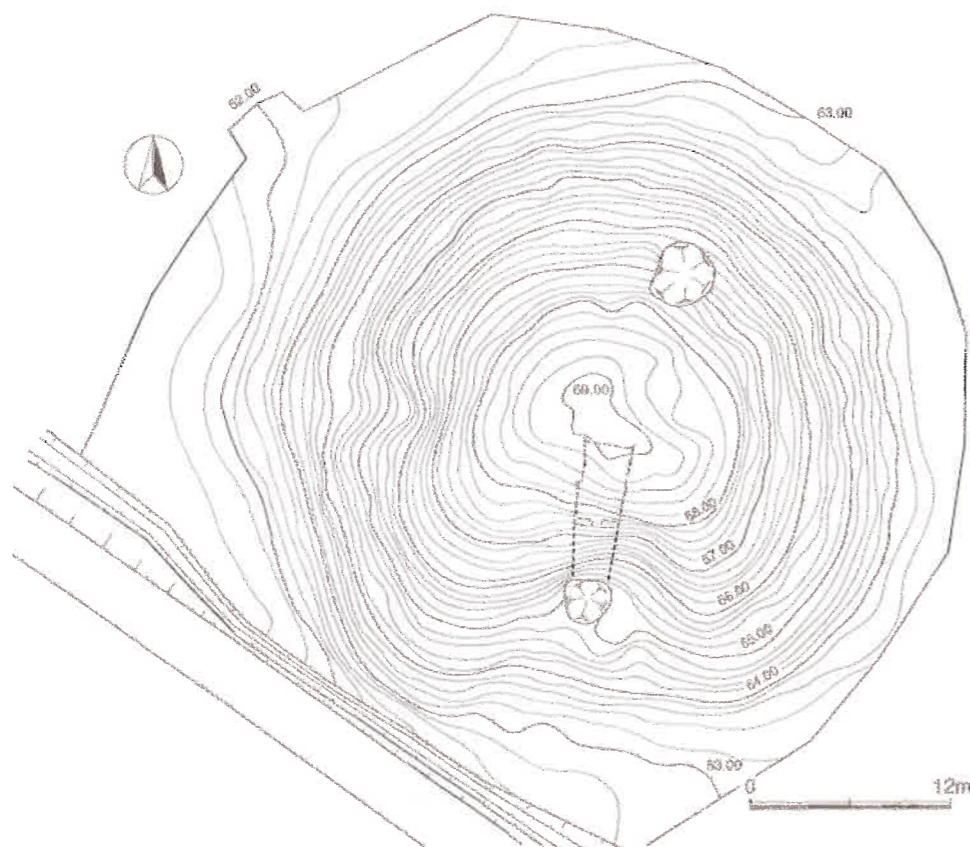


鳥取県米子市教育委員会



石州府古墳群

石州府古墳群は、約130基からなる西伯耆最大級の古墳群です。昭和59年(1984)に米子道の建設工事に伴い、丘陵部に位置する29号墳(前期・4世紀頃)が発掘調査されました。また、昭和61年～63年(1986～1988)には工場用地造成に伴う大規模な発掘調査が行われ、74基もの古墳が調査されています。これらの発掘調査によって、石州府古墳群では古墳時代前期から終末期まで長期間にわたって古墳が造り続けられていたことが判明しています。*



石州府1号墳
墳丘実測図

石州府1号墳の概要

石州府1号墳は、直径約40m、高さ6mの規模を誇る円墳で、西伯耆でも最大級の大型円墳です。墳丘の発掘調査は行われていませんが、北側に窪みがあることから、周溝が巡っていた可能性があります。

この古墳の埋葬施設は、全長7.5mの巨大な横穴式石室です。石室入口の羨道から開口部までは土で埋められているため、大変狭くなっていますが、玄室内はかなり広く、奥行4.4m、幅2.5m、高さ3mもあります。玄室内は盗掘によってかく乱されているようですが、奥壁側には死者を安置する石囲い(石障)の一部が露出しています。この石室に使用されている石材は、玄武岩と考えられます。

石州府1号墳は、古墳時代後期(6世紀)の日野川右岸域の首長墓であり、米子市の古墳時代を物語るに欠くことのできない古墳として、平成25年(2013)4月10日に米子市の史跡に指定されました。

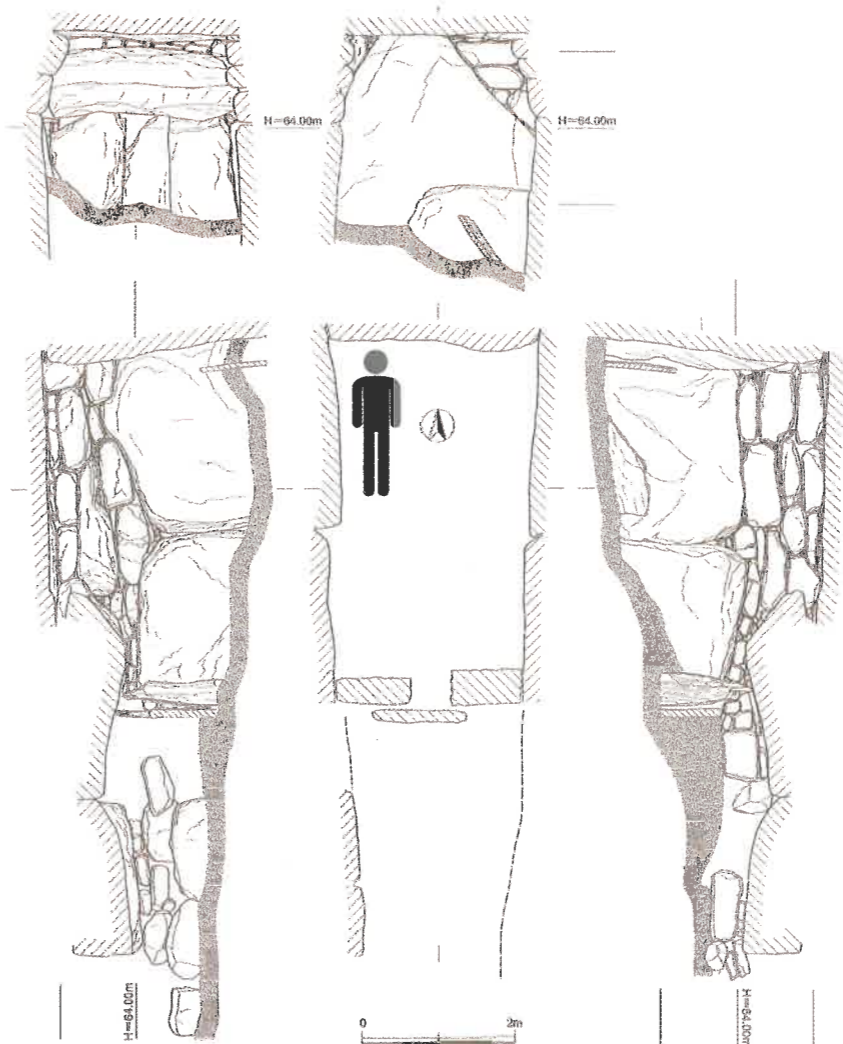
*石州府の地名は、地元では「せきしょ」と呼ばれていますが、行政地名の「せきしゅうふ」を採用しました。



▲頭椎太刀の出土状況



▲頭椎太刀



1号墳石室図



▲石室の奥壁



▲須恵器の台付壺

石州府1号墳の出土遺物は、全て羨道部から出土したもので、盗掘の際に捨てられたものと考えられています。主な遺物は、被葬者の地位の高さを示す金装の飾り太刀である、頭椎太刀の破片と青銅製のつば鏢、鉄製の馬具の破片、須恵器の台付壺などが出土しました。特に頭椎太刀は鳥取県内では3例しか見つかっていない貴重な遺物です。

